

現地取材編 長野県川上村の白菜特集！！

今月号は丸西産業様にご協力頂き、白菜生産者様を取材しました。
千代田化成の使い方などを聞いてきましたので、是非参考にして下さい！

～川上村の紹介～

川上村は、標高1200メートル地点にあり、その冷涼な気候で育つ高原野菜の一大産地です。

特に日本一のレタス産地として有名で、年間生産量はレタスが8万トン、白菜は4万トンとなっています。



～丸西産業様の紹介～

本社は長野県飯田市にあり、関東・九州に支店を構えています。
明治期に肥料販売業者として創業され、昭和後期から青果物の流通事業を開始。

現在ではカット野菜事業、カットフルーツ事業を展開しています。



丸西産業様の千代田化成販売スタイル！！

Q.千代田化成をおすすめする理由は？

A.一番は様々なシーンで使用できることです！
千代田化成は低温時でも溶けが速く、効率よく効いてくれるので、春先の基肥時期では、地温・気温が低い地域の**活着肥として最適**です！

白菜の栽培体系(川上村)

植付	収穫	施肥量	
		基肥	追肥
5月~8月	6月中旬~11月	千代田化成550 2~3袋 (N:6~9kg)	千代田化成550 6~7袋(株間3~4袋、畝間3~4袋)N:18~21kg

液肥の使い方

追肥では畝間への表層施肥が中心ですが、液肥としてNPKを同時に効かせられるファイン千代田1袋/10a(400ℓで希釈)をブームスプレーヤーで散布する方法も提案しています。

白菜農家さんにインタビュー！

◎井出祐晃さん(作付面積 約8ha)

◎遠藤修一さん(作付面積 約7ha)



Q.千代田化成を使用する理由は？

A.一番の理由は失敗しないことですかね。

以前は、春先のマルチを敷く前の元肥えから始まり、2作目の株間、畝間への追肥にも全て使っていました。

他の肥料だと、ガス障害が起きたりしますが、千代田化成はその心配が少なく、**低温時でもすぐ溶ける**ので生育が順調で安心できますね。

生育不良のときは、千代田化成を使用しています。

圧倒的な“効き目”の速さ！



- ▶ 少ない水分でも素早く溶けて速やかに作物に吸収されます。
- ▶ 特に、土壌表面への施肥となる露地の追肥では、少ない水分でも良く溶けるので、一般的な粒状肥料よりも早く効きます。
- ▶ **効かせたい時に効かせられる肥料**です。

千代田化成 は溶けやすさが違います！

他社 水溶性タブレット肥料(一般の粒状肥料より溶けやすい肥料)との比較



千代田化成は“溶け”のスタートダッシュが違います。
その後の、吸収→生育において大きな差が出てます。

編集後記

丸西産業様、井出様、遠藤様、ご協力頂き誠にありがとうございました。
より詳しい使い方やポイントなどを快く教えてくださいました。
これからも千代田化成をよろしく願い致します。